

令和5年9月

各 位

一般社団法人 農業開発研修センター  
会 長 理 事 増 田 佳 昭  
[公 印 省 略]

## J Aの経営基盤強化に関する特別研究会（Ⅱ）の開催について

拝 啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、標記の研究会を別紙要領のとおり開催します。当センターでは、地域農業の振興・活性化とJ Aの改革に貢献することを目的として、各種の研究会（研修会）を毎年開催しており、全国各地から多数の方々にご参集いただいております。

今年度の標記研究会では、昨年度に引き続きJ Aの持続可能な経営基盤の確立・強化をいかに実践していくのかに焦点を当て、今回は特に、攻めの経営戦略に着目し、企画・開催します。

当研究会は、参加者と講師との討論をより深めるため、対面方式を重視しますが、遠隔地からも参加しやすくするため、リモート方式も併せて開催します。

そこで、業務ご多忙の折とは存じますが、貴団体・機関の関係者のご参加につき格別のご配慮を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、会員（団体）は、各種研究会のリモート部分受講コースを年間に1名無料で参加（体験）できます。是非ともご活用ください。

また、ご希望があれば本要領とは別にメールでもご案内いたしますので、事務局にご連絡いただければ幸いです。

敬 具

# J Aの経営基盤強化に関する特別研究会(Ⅱ)開催要領

主催：一般社団法人農業開発研修センター

## 《趣 旨》

J A経営をめぐる内外の環境変化は、担い手問題の深刻化等地域農業をめぐる情勢変化に加えて、ウクライナ侵攻の影響を受けた世界的な資源・食糧価格の高騰とインフレ懸念、長期にわたる金融緩和政策と農林中金からの奨励金の引き下げ等を背景として、大変厳しく、J A経営は楽観を許さない経営見通しがなされています。

J Aグループでは、第29回J A全国大会において「不断の自己改革」のさらなる実践を掲げ、持続可能な経営基盤の確立・強化を図るため、各種の合理化・効率化の改革に取り組んでいます。同時に、J Aの将来ビジョンとその実現に向けての成長戦略も強く求められています。

そこで本研究会では、昨年度に引き続きJ Aの持続可能な経営基盤の確立・強化をいかに実践していくのかに焦点を当て、今回は特に、攻めの経営戦略に着目し、開催します。

期 間：令和5年11月16日(木)～17日(金)

会 場：京都J Aビル (アクセス参照) 201・202会議室

開催方法：対面およびZoom

対 象： ①J A、都道府県中央会・連合会・都府県本部、全国連の役員及び職員（特に管理職）  
②都道府県などの地方自治体のJ A指導担当部署の職員  
③その他、関連する農業団体・行政機関などの役職員

定 員：50名程度（リモートを除く）

昼 食：

17日(金)に弁当（1,200円（税込））を準備します。ご希望の方は、参加申込書からお申し込みください。

参加費： (円(税込)／人)

		対面	リモート
1. 全日程受講コース 〈 〉内は、2名以上をまとめて申し込んだ場合追加は割引対象外	会 員	41,000 〈37,000〉	41,000 〈37,000〉
	非会員	52,000 〈47,000〉	52,000 〈47,000〉
会友（個人会員）に新規加入の場合（令和5・6年度の会友会費7,500円を含む）		43,500	43,500
2. リモート部分受講コース* 11月16日限定のリモート受講	会 員	—	15,000
	非会員	—	30,000

注1：会員は、会員所属者および令和4年度以前からの会友（個人会員）の金額です。

注2：令和4年度以前からの会友（個人会員）は、報告ごとの参加ができて別途割引があります。

※会員（団体）は、各種研究会のリモート部分受講コースを年間に1名無料で参加（体験）できます。

## 懇談会：

参加者と講師の交流の場とした懇談会を予定しています。ご希望を申込書へご記入ください。開催する場合は、参加希望者に改めてお知らせします。なお、懇談会費は当日にお支払いいただきます。

<開催予定日時>

と き：11月16日(木) 17：30～（2時間程度）

懇談会費：6,500円（消費税込）

## 申込方法：

- ①5ページの参加申込書をファックス送信またはGoogleフォーム（アクセス横のQRコード）、当センターのHPからお申し込みください。
- ②受付完了通知をメールまたはファックスで送信しますので、参加費（昼食代）を送金してください。（懇談会費は送金しないでください。）なお、振込手数料はご負担ください。
- ③リモート参加の場合、実際に聴講される人数の参加費を送金してください。（カメラはオン表示は団体名で参加していただきます。）

<振込先>

京都府信用農業協同組合連合会（京都信連）

本 店 当座預金 口座番号：6373291  
京都銀行 京都駅前支店 普通預金 口座番号：3164073

口座名義：一般社団法人<sup>シヤ</sup>農業開発研修センター<sup>ノウギョウカイハツケンシユウセンター</sup>

申込（送金）締切日：11月10日(金) 17：00

当開催要領は、ホームページ (<https://agridtc.or.jp>) に掲載しています。

## キャンセルポリシー：

お申し込み後のキャンセルはキャンセル料が発生しますのでご注意ください。

- ・11月10日(金) 17：00まで …… 10,000円
- ・11月10日(金) 17：00以降 …… 全額

## 問い合わせ（申し込み）先：

一般社団法人農業開発研修センター 研究会受付係

〒601-8585 京都市南区東九条西山王町1（京都JAビル）

TEL：075-748-0703

FAX：075-748-0855

E-mail：seminar@agridtc.or.jp

URL：https://agridtc.or.jp

アクセスはこちら



JR京都駅（八条口）  
より徒歩5分

申し込みはこちら



日 程：

《第1日目》11月16日(木)

13:30～13:50 開会あいさつ・オリエンテーション

一般社団法人農業開発研修センター

常務理事 瀬津 孝

(京都大学農学部非常勤講師)

13:50～15:10 報告Ⅰ JAの経営をめぐる情勢と経営基盤強化の課題

(うち質疑応答約10分)

横浜国立大学名誉教授・大妻女子大学名誉教授 田代 洋一 氏

- 専門は農業政策。『農協改革と平成合併』、『農協改革・ポストTPP・地域』（筑波書房）等、著書多数。
- 監督指針見直しによる早期警戒制度の導入と成行シミュレーションによる経営改善策をどうみるか
- 施設再編、組織再編による経営基盤強化に向けた課題は何か

15:10～15:30 休 憩

15:30～16:40 報告Ⅱ 協同の力によるわがJAの改革実践と今後の展開方向

(うち質疑応答約10分)

京都府 京都丹の国農業協同組合

代表理事組合長 迫 沼 満 壽 氏

- 平成9年に誕生した3市（一部を除く）を管内とするJA。組合員数20,185名、貯金1,636億円、貸出金396億円、長期共済保有高4,569億円、販売品取扱高17億円、購買品供給高19億円（令和4年度実績）
- これまでの自己改革の取り組み経過と今後の課題
- 支店を核とした、協同活動を通して組合員と地域を巻き込みながら組織・地域の活性化に取り組む「支店活動活性化委員会」の役割と活動方針
- 農業塾「野菜の学校」を通じた担い手育成をはじめ、農産物応援定期貯金による地産地消運動の実践などJAの総合事業を活かした事業活動の展開

16:40～17:30 移 動

17:30～19:30 懇 談 会（予定）

《第2日目》11月17日(金)

シンポジウム「攻めの経営戦略を考える

－JAの経営基盤の確立・強化に向けて－

9:30～ 9:50 座長解題

神戸大学名誉教授

高 田

理 氏

<座長解題>

- シンポジウムで議論したい論点と参加者に期待したいこと
- 販売事業を中心とした自己改革の実践
- 2つの実践報告の関連と意味付け

9:50～10:50 実践報告① 販売と指導の連携による販売力強化の実践

香川県農業協同組合 常務理事（営農担当） 陶 山 幸 弘 氏

- 平成12年に誕生した県内全域を管内とする県単一 J A。組合員総数139,823名（うち、正組合員56,982名）、貯金19,012億円、貸出金2,364億円、長期共済保有高27,292億円、販売品取扱高395億円、購買品取扱高199億円（令和4年度実績）
- 2020年に高松市中央卸売市場内に開設した「販売力強化推進室」による卸売業者および量販店等との取引強化による有利販売実現の取り組み
- 出荷予測システム「あい作」による栽培情報の見える化および組合員との情報共有の強化による営農活動の効率化・高度化を図る取り組み

10:50～11:00 休 憩

11:00～12:00 実践報告② J A 糸島産直市場「伊都菜彩」を中心とした自己改革の実践

福岡県 糸島農業協同組合 営農部 部 長 小金丸 肇 氏

- 昭和37年に誕生した糸島市を管内とする J A。組合員総数16,664名（うち、正組合員5,312名）、貯金1,182億円、貸出金163億円、長期共済保有高3,662億円、販売品販売高103億円、購買品供給高32億円（令和4年度実績）
- コロナ禍にもかかわらず2020年度の販売高は39億円となり、J A ファーマーズマーケット売上げで全国一位
- 近隣に大消費地である福岡市をはじめ、管内にも大型スーパーを抱える激戦地のなか、店内に並ぶ農畜産物の9割以上を糸島産が占めるなど、徹底した差別化と地産地消を図った販売戦略を展開

12:00～13:00 昼 食

13:00～14:10 討 論

(座 長) 前 掲 高田 理 氏  
(コメンター) 兵庫県 兵庫六甲農業協同組合 企画管理本部  
ゼネラルマネージャー 大西 弘高 氏  
滋賀県農業協同組合中央会 J A 経営支援部  
部 長 西村 淳 氏

14:10～14:30 休 憩

14:30～15:50 報告Ⅲ 総合 J A の経営基盤の確立・強化をどうすすめるか

(うち質疑応答約10分)

－攻めの経営戦略を考える－

滋賀県立大学名誉教授 増 田 佳 昭 氏

- 当面の J A の経営基盤強化に向けた問題点・課題をどうみるか
- 経営の効率化だけでなく成長を促す攻めの経営戦略のポイントは何か
- これからの総合 J A の経営基盤強化のあり方を考える

15:50～16:00 閉会あいさつ 一般社団法人農業開発研修センター 会長理事 増田 佳昭

(滋賀県立大学名誉教授)

注) 講師の都合等により、報告時間等に若干の変更がある場合があります。予めご了承ください。

